

1. 神戸新聞コラム 2022. 7. 29. 「正平調 -聞くと聞く-」
2. 元阪大総長 臨床哲学の麓尾清一氏
エッセイ 神戸新聞 2022. 7. 29. 「汀にて -謙虚な教習-」

1. 神戸新聞コラム 2022. 7. 29. 「正平調 -聞くと聞く-」

最近 TV やインターネット等で聞きする日本のリーダーやコメンテーターたちの言葉・行動のあまりにも軽さ・不可思議なのに危惧を抱いている。 どうも自分の役割・責任範囲をわきまえていないのでは? と感じることも多い。高度成長の時代を経て、高度情報化の時代。 次から次へと過剰な情報が玉石混合で耳にする時代。 それでいて 自分もそんな情報に頼っていると感じることも多い。

7月26日の神戸新聞コラム「正平調」にそんな日本の風潮を危惧するコラムが書かれている。

皆様にはどううつるでしょうか……

「聴く」と「聞く」

神戸新聞朝刊 1面コラム「正平調」 2022. 7. 26. より

正平調

「聴」という字は、耳に十四の心と書きます。他人の話を聴くには、多くの心で耳を傾けるような気持ちが大切です。能力開発セミナーで仕入れた話だ。同じ「きく」でも、「聞く」には「自然に耳に入る」という意味があり、辞書の例文の中には「聞き流す」があった。人の話に気持ちを向けて耳を傾けるのは「聴く」となる。こちらは傾聴、静聴などが記されている。◆「特技は人の話をよくきくこと」と公言する岸田文雄首相の場合は「聞く」か、それとも「聴く」だろうか。というのも国民の声に耳を澄ませていると思っていれば、いろんな考えに触れることなく大事な物事を速断してしまったから。凶弾に倒れた安倍晋三元首相の国葬である◆事件から一週間、多くの人が事態をどう受け止めればいいのか、整理が付かない中で表明だった。先日は閣議決定を済まし、法的にもオーケーという。ずいぶん荒っぽいやり方だ◆ネットに限らず、本紙の発言欄やイイミミにもさまざまな声が寄せられる。首相はこうした意見にこれから耳を傾け、丁寧に説明するとか。いや、順序が逆では◆「聴く」には、「きき入れる」「認める」の意味も。突然、首相の決定を聴かされて、きき入れるよう国民に求められても困惑するばかり。

2022. 7. 26

日本では「五感を研ぎ澄まして……」というが、その五感と中味を一度吟味せねばと思って……。

正平調氏は「聞く」と「聴く」では大違いという。「聞き流す」と「傾聴する」のでは大違い。

「見る」と「観る・見る・診る」では大違い。 若い頃「何を見てたんや」とよく注意されたことを思い出す。

言葉にすればおなじであるが、その理解力・行動力そして行動パターンに大きな違いが見えてくる。

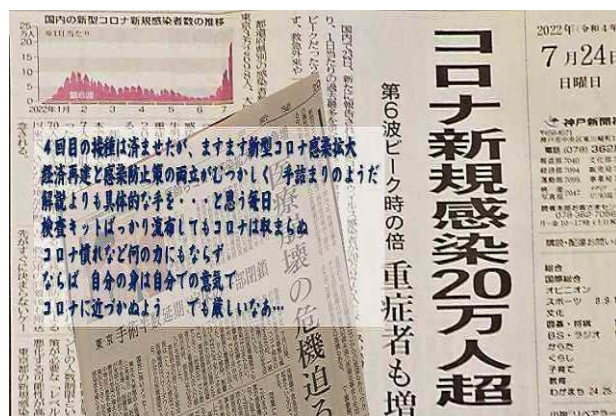
でも、今の風潮はほとんど「ことば」で済ましてしまう。

ましてや「どっちやねん」と聞き返すことには抵抗がある。

いまや世界の潮流から取り残され始めた日本 多量の情報に酔うことなく中身をしっかりと「聞き分ける」

「見わかる」ための判断力・理解力を研ぎすまさないこと。

激動・変革の時代と言われることも多いのですが、言葉に酔ってはいけなと正平調氏にふむふむと。



【歴史的】アメリカを象徴する会社の
信じられない崩壊
最強だった組織はどこで間違えたのか

LIGHTS OUT

巨大企業が崩壊するとき

GE 帝国 盛衰史

内部では何が起ころのか? ビル・ゲイツ絶賛

『GE帝国盛衰史』——「最強企業」だった組織はどこで間違えたのか? トーマス・グリタ、デッド・マン著 御堂英史訳、定価2200円、ダイア

多くの日本人は気づいていなかったが、2000年以降のアメリカでこの100年経っていない異変が進行していた。発明王・エジソンが興した、決して沈むことがなかったアメリカの魂と云える会社の一社、ゼネラル・エレクトリック (GE) がある。その企業価値を失ってしまったのだ。

ただ、鈴木さんはそうではありませんでしたが、一般的に経営者は、社長の期間が長くなるほど「自分が辞めると会社が回らなくなるのではないか」と不安にかられ、引退のタイミングを逃すこともあります。20人ほどの会社を26年ほど経営している私もそう思うことがあります。私はもうすぐ65歳です。結果として会社の成長機会を奪うことになることも少なくありません。

成長できない中小企業には三つの共通点がある
ピーター・ドラッカーは、ある程度まで成長した中小企業の成長が鈍化する理由として、以下の3点を挙げています。

- (1) キャッシュフローより利益を重視する
- (2) マネジメントチームの欠如
- (3) 経営者が自分の位置付けを見失う

「経営者が自分の位置付けを見失う」とは、成長への次のステップに直面した時、自分は次にどういう役割を担うべきだと考えるということです。本来なら引退の決断をするべき場合でも、自分が何かをやらねば、という錯覚にとらわれてしまう。私も経営者の引退の決断は、なかなか難しいので

参 考 From Kobe8 月 ひまわりの夏 2022 神戸便りより

インターネットで見つけた巨大企業トヨタの記事に最近の世相を重ねて

要 旨 自動車メーカーの「下請けイジメ」の記事に思う

サプライヤーの「ケイレツ格差」もう随分長いなあ…と By Mutsu Nakanishi From Kobe

全 文 <https://infokkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0408A.pdf>

紹介記事 1. ダイヤモンド on line 2022. 7. 10.

自動車メーカーの「下請けイジメ」を示す衝撃データ大公開！搾取構造が浮き彫りに

ダイヤモンド編集部 浅島亮子：副編集長

自動車産業は裾野が広く、完成車メーカーを頂点とするサプライヤーピラミッドを形成している。

近年、完成車メーカーやティア1（1次下請け）などピラミッドの上位企業が好決算を挙げる中、それ以外の中下位サプライヤーが潤わないケイレツ格差が問題視されるようになってきた。

実際に大企業による下請けイジメは存在するのか。特集『決算書 100 本ノック！2022 夏』（全 21 回）の最終回では、大企業による搾取構造を示す衝撃データを明らかにする。（ダイヤモンド編集部副編集長 浅島亮子）

■ 特集『決算書 100 本ノック！2022 夏』（全 21 回） https://diamond.jp/list/feature/p-fs100_2022summer

紹介記事 2

THE OWNER 編集部 「下請けいじめと呼ぶかは自由だが…」

■ 「下請けいじめ」の成果？コロナ禍でもトヨタ 2 兆円超えの黒字

<https://the-owner.jp/archives/5624>

■ 「下請けいじめと呼ぶかは自由だが…」との上記紹介記事の論調そのものが、大企業・経済団体・官僚などが考える中央の考え方か？あの例の「トリクルダウン」の考え方そのものと

2022. 7. 15. Mutsu Nakanishi From Kobe

体力のある企業が収益を得て、現状に甘えて、新しい技術開発・先端技術開発を強力に推し進めず、後回しにしたことが現在の日本の現状 出口のない日本衰退の道へと至らしめているのではないかと・・・。

「二番手ではいけないのですか・・・」「トリクルダウン」の考え方に甘んじれば、長期の展望は開けないと。企業集団の中心にいる大企業と下請け企業とが、ほぼ同じタイムで利益を享受できるのが筋ではないかと・・・と。

自動車事業とは別の企業集団 かつての高度成長時代を支えた鉄鋼集団の雄 日本製鉄がトヨタに出した鋼材価格引き上げがもたらした日本経済全体に対する効果を見るがいい。

国際競争力に名を借りた大企業集団の横暴とみるべきではないかと・・・

なぜならこの「下請けいじめ」といわれるトヨタの体質は 本年のみ急に現れたものではないと見えないか？日本のトップ企業が持つ体質とも見える。

いま 日本をけん引してきた自動車のみならず、鉄鋼・家電産業・エネルギー等々日本を引っ張ってきた産業がほぼ時を同じくして その成長性を失い、先の見通しが取れずで、その中身の実態は承知していないが、少なからず「下請け・中小企業いじめ」と捉える対応がはびこっているとも。

今 日本を先行きのためには「成長」と「配分」と声高に言うだけでなく、しこたま内部留保を高めた企業集団からの「配分」資源 そして新しい成長へ向けた積極投資の道で 社会底辺・インフラ整備を進めないと日本の没落はさらに進むのではないかと・・・。

そんな目でながめると「トヨタ」の存在のなんと大きいことか……。 「トヨタ」への注目が高まるのも致し方なし。また かつて「トヨタ」と同じ立場にあった「鉄鋼・素材」「エネルギー」「エレクトロニクス」等の産業にも先行投資の声の大きい「新産業」とともに新しい息吹を吹き込むことが必要だろう。

いまや「成長と集中」の方向を見余らぬよう考えねばならぬポイントにあると思う。

いつもの年寄りのぶつぶつです。暴論あえて 一言

2022. 7. 15. Mutsu Nakanishi